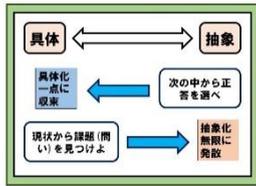


頭の良い人とは？（具体化と抽象化）

通番	区分	テーマ	ねらい・概要	スライド	使用教材
1	I・II		具体化と抽象化することは どういうことかに焦点を当てて考える。人間だけが持つ「概念化」について理解を深める		

時間	スライド	ファシリテーション・生徒の活動・留意点など										
15分	<p>「頭の良い人」って？ 具体と抽象</p> <div data-bbox="279 936 523 1108" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>問い 「頭の良い人とはどういう人でしょうか？」</p> </div> <p>いろいろな人が考える「頭の良い人」とは？</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>小学生</td> <td>テストの点数が高い人 たくさんのお金を持っている人</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>頭の回転が速く、気の利いた返答する 言うことが論理的で反論できない</td> </tr> <tr> <td>小学校の先生</td> <td>教み込みが深い 少し説明しただけで全体を理解</td> </tr> <tr> <td>高校の先生</td> <td>自分の頭で考える 網羅みにしないで批判的に捉える</td> </tr> <tr> <td>社会人</td> <td>発想豊かで面白いアイデア 説明上手で分かりやすい 効率的で無駄がない動き</td> </tr> </table> <p>頭の良い人とは 「具体化」と「抽象化」の往復運動が得意な人</p> <p style="text-align: right;">谷川 祐基</p> <div data-bbox="279 1608 529 1792" style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">具体 ←→ 抽象</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> </div> </div> <div data-bbox="279 1814 529 1998" style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">具体 ←→ 抽象</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="font-size: small;"> <p>出発地 平安時代 鎌倉時代</p> </div> <div style="font-size: small;"> <p>日本史 外国語 総合的探究 特別活動</p> </div> <div style="font-size: small;"> <p>教科 学校 家庭 社会</p> </div> </div> </div>	小学生	テストの点数が高い人 たくさんのお金を持っている人	高校生	頭の回転が速く、気の利いた返答する 言うことが論理的で反論できない	小学校の先生	教み込みが深い 少し説明しただけで全体を理解	高校の先生	自分の頭で考える 網羅みにしないで批判的に捉える	社会人	発想豊かで面白いアイデア 説明上手で分かりやすい 効率的で無駄がない動き	<p>「頭の良い人とはどういう人か？」それぞれの人が持っているイメージについて言語化を図る</p> <p>小学生、高校生、小学校の先生、社会人などいろいろな立場の人に「頭の良い人」との質問に対して答えた結果を共有する</p> <p>頭が良い人とは「「具体化」と「抽象化」の往復運動が得意な人」という主張について考える</p> <p>「具体」と「抽象」の構造について</p> <p>身近な例から理解を図る</p> <p>教科学習と探究的な学習の違いを意識する</p>
小学生	テストの点数が高い人 たくさんのお金を持っている人											
高校生	頭の回転が速く、気の利いた返答する 言うことが論理的で反論できない											
小学校の先生	教み込みが深い 少し説明しただけで全体を理解											
高校の先生	自分の頭で考える 網羅みにしないで批判的に捉える											
社会人	発想豊かで面白いアイデア 説明上手で分かりやすい 効率的で無駄がない動き											



フランスの大学入試問題

- ・無意識はあらゆる形式の認識から透れているか？
- ・議論するとは暴力を断念することか
- ・我々は未来に責任を持っているか

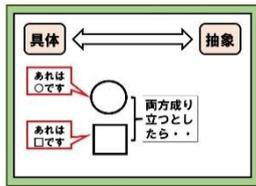
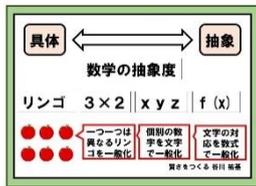
認知	概念	出題例
1知識	情報や概念の〇〇とはこういう〇〇が起きるのは異次元何年ですもの(を)要する。	か
2理解	伝えられたことが分かり素材	異次元というのとはどのような日や現象を指しているか
3応用	情報や概念を特定の具体的な状況	質問をなくすにはどのようなようにすればよいか
4分析	情報や概念を分類し相互の相	外国語を学ぶ利点を3つあげ理由を明らかにする
5評価	事象や方法の価値を目的に照	選抜は校長の政策と異なるからして合理的か
6創造	体得した概念を再構築して新	原理が対応する事例を自ら設定し、当事者としての対話力を養うこと

「未来創造」の目指すもの

これからの社会で最も必要とされる力=創造力

創造力は生まれつき固定のものではなく、鍛えて育つ筋肉

どんな人でも創造的思考能力を高めるトレーニングメソッド



正答を見つける → 「同じ」を追求する
 問いを立てる → 一人一人に応じて時間や条件によっても変化する
 「無数に発散するもの」

試験の答案の違い

比較

フランスの大学入試の問題

「理解すること」や「認知の段階」として、「知識」「理解」「応用」「分析」「評価」「創造」という分類方法があることを示す
 同時に各段階に応じた出題例を見ると理解しやすい

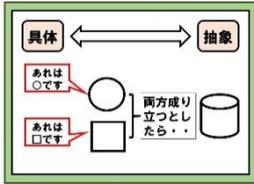
この「未来創造」が目指していることをあらためて確認する

単なる理解や応用をもう一段超えた「創造」の領域を伸長することをねらった

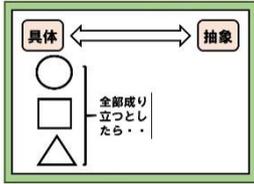
「具体」と「抽象」を往復する実際の例を「数学」について示す

図形で示した例

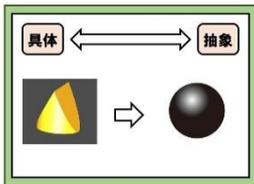
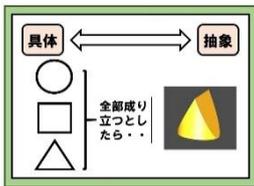
30分



キーワードは「両方成り立つとしたら」→ 「二律背反にしない」「同じ次元ではないところを考えてみる」



もう一つの例
「3つすべて成り立つとしたら・・・」
→ 生徒に考えさせる



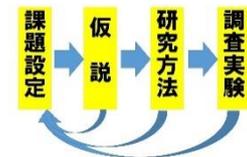
「研究とは何か？」
「研究とは何をやれば良いか」が分かったこと

大学では研究についてあらためて細かくは教えてくれない

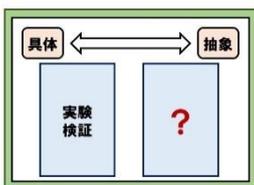
「研究」とは何をすることか？

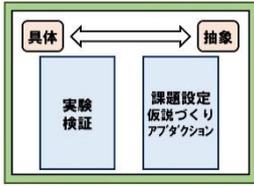
その一般的な方法を学ぶ
(クラスによっては、「探究活動とは」という単元でより詳しくやるため、ここでは一般的な説明にとどめる)

40分

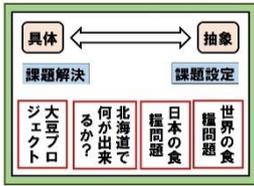


「課題設定」「仮説」「研究方法」「調査・実験」について、「具体」と「抽象」に分けるとどのようなになるかその関係を明らかにする





地球的な大きな課題をブレイクダウンして、地域の問題に具体化する方向と逆に地域の課題から地球課題につなげていく方向があることを理解する



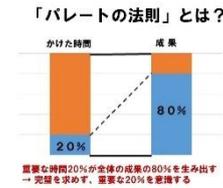
最初にたてる「仮説」の良しあしで研究の進み方が大きく異なる

→ パレートの法則を参照する



与えられた問題ではなく、「自分の問い」を立てることの重要性を理解する

「考えさせられる」ことは、「考える」こととは異なる



与えられた問題に答える力は「考えさせられる力」

「自分の問い」がなければ「考える力」を育てていくことはできない

学校は「考えないこと」を教えている

「考えるとはどういうことか」 藤谷 真司